

本日この時、皇太子殿下ならびに下村博文文部科学大臣、北川イッセイ国土交通副大臣、国内外の土木関係学会会長を始めとするご来賓の皆様のご列席の下、1914年に設立された土木学会が、創立100周年記念式典を挙げていただけますこと、誠に感謝にたえません。会員および関係の方々とともに、誇りを持って祝いたいと思います。これまで準備にご努力いただいた実行委員長を始めとする方々には、会長として心からお礼申し上げます。

人類が誕生して以来、土木は人々の生活を豊かにするのに貢献してきました。山奥に踏み入って狩りをし、食物を採集するための道を切り開いたのがその始まりと言えるでしょう。農耕時代を確立するためには、水路を巡らせて灌漑を行うことが鍵となる土木技術でした。また、居住地を整え、村を形成し、都の骨格を創り出したのも土木技術です。そして、洪水など時に荒れ狂う自然の猛威から、人々を守る努力を続けてきたのも土木です。こうして土木は人類の歴史とともに歩んできたのです。

近代に入り、産業革命を通じて人類が手にした力とエネルギーは、それまでとは格段に違った大規模な土木事業を可能にすることになりました。そのような大きな飛躍期に設立されたのが土木学会です。初代会長の古市公威は、土木を「指揮者を指揮する人」に表される総合工学であるとともに、目的を達成するためには土木という分野を超える必要があることを強調しました。そして、治水・利水や、港湾、鉄道・道路、都市の整備など、大きな目的に向かって、それまでにはなかった規模と質の土木事業が、人々の生活を安定させ、豊かにしてきました。

その後も我が国においては、関東大震災、世界恐慌、第二次世界大戦、オイルショックや経済危機に見まわれました。それら乗り越える際に、土木は多大な貢献をしました。その努力と成果の上に、現在の経済の発展と国民の生活が成り立っています。

しかし、同時に社会では、地域規模に至る環境問題や資源問題が姿を現しています。また、豪雨、土石流、地震、津波、高潮、火山噴火や旱魃などにより甚大な災害が頻発しています。これまで蓄積してきた社会資本の維持も課題となっています。土木はこのような諸問題を解決するために先頭に立って貢献し、一段と高い新たな目標として、持続可能な社会の礎を築かなければなりません。

土木学会は「土木工学の進歩及び土木事業の発達並びに土木技術者の資質向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与すること」を目的としています。持続可能な社会の礎を築くため、次の100年に向かって、土木学会は、広く土木技術を発達させ土木事業に活かしながら、土木技術者を育成し、人類の福祉と文化の創造に挑戦していかなければなりません。今日を機に、会員諸氏とともにさらなる研鑽を積んでいく覚悟を表明し、式辞の結びといたします。

平成26年11月21日
土木学会 会長 磯部雅彦